

ふくし直治

議会報告

FUKUSHI NAOHARU NEWS

2025年
第9号



政治信条

地域に **真っ直ぐな**
政治
聞く 動く 伝える

〈発行〉ふくし直治 事務所

〒030-1502 青森県東津軽郡今別町大字今別字今別144-2

重点テーマ

1次産業の振興 災害に強い地域づくり

地域医療・福祉の充実 新産業の育成

観光産業による地域活性化

聞く・動く・伝える

聞 く… 私たちの地域に住む人、働く人の思いを直接聞いて政治活動に活かします。
動 く… 皆さんの声を受け止め県政に訴え問題解決のために誠意をもって行動します。
伝 える… 地域の声は県政へ、県からの声は皆さんへ私が必ず伝えます。

皆様のご要望・ご意見をお聞かせください



ご挨拶

日頃、わたくしの政治活動に対し、ご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

令和7年も昨年からの異常気象の影響により、農林水産物に大きな被害を与えており、特に急激な米価高騰は生産者・消費者共に影響が出ています。

また、物価高騰も続く中で私達の暮らしを守る取り組みが必要です。これからも「地域にまっすぐな政治」を信条とし、青森県そして東津軽郡に住む皆様の暮らしに貢献していきたいと思います。今後とも皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いします。

青森県議会議員 福士 直治

県議会への提言

〔令和7年6月議会〕提出議案に対する質疑

01

陸奥湾ホタテガイ養殖業の振興について

Q 福士

稚貝の地域間融通に向けた取組や養殖業の持続的発展を図るための対策を伺いたい。

A 県

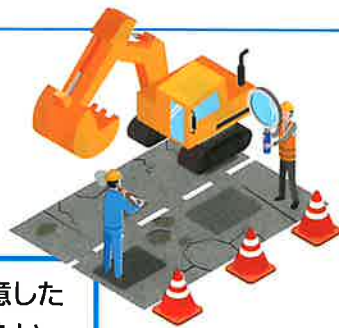
陸奥湾ホタテ養殖の持続可能化に向け、採苗不振や高水温によるへい死対策を急務と捉え、総合戦略に基づき取組を進めている。高水温対応技術の開発や海洋環境の見える化、漁協間での親貝確保の合意など進展がある一方、餌不足の可能性も指摘されており、県は六月中に新たな対策を取りまとめ戦略を強化する。

なおはるの想い

海水温上昇や餌不足など複合的な要因により、陸奥湾のホタテ養殖業では稚貝の大量へい死が発生し、地域経済に深刻な影響を与えています。本県のホタテガイ養殖産業を守る継続的な取り組みと情報共有が必要だと考えます。



02 津軽半島地域の安全・安心を 確保する道路機能の強化について



Q 福士

これまでの調査・国への要望等の取組と今後の予定、次に両町長が合意したバイパス整備における、現在県が検討中の有力ルート案について伺いたい。

A 県

県道今別蟹田線小国峠区間の整備は半島防災の観点から重要であり、これまで両町と情報共有し概略設計やルート案を整理、今年3月に基本合意した。先月は国にも平坦化整備を要望しており、早期事業化を目指し、関係機関と協議・調査・設計を着実に進めていく。

なおはるの想い

冬期の通行に課題を抱える県道今別蟹田線小国峠区間の整備は、津軽半島地域の安全確保に不可欠な道路機能強化の一環であり、早期着工が望まれます。

03 国道280号バイパスにおける 自発光式視線誘導標の設置状況について



Q 福士

国道280号バイパスでの、自発光式視線誘導標の設置状況について伺いたい。

A 県

国道280号バイパスでは、吹雪等で視程障害が発生しやすい蓬田村の約2km区間に自発光式視線誘導標を整備中である。ポール上部のLEDが自動点滅する構造で、これまでに約6割(1,260m)の設置を完了した。今後もある区間の整備を着実に進め、安全性向上を図っていく。

なおはるの想い

津軽半島では吹雪や濃霧による視界不良での交通事故の危険性が高く、夜間運転への不安の声が聞かれます。特に国道280号バイパスでは、自発光式視線誘導標の設置済区間と未設置区間で安心感に大きな差があることから、全線での設置拡大を求めています。

04 JR津軽線について



Q 福士

県はJR津軽線廃線後の地域の利便性確保に向け、自動車交通の一体運行にどう取り組むのか伺いたい。

A 県

JR津軽線に関する基本合意は、運休後の協議の成果であり、新設NPO法人が利便性・持続性の高い地域交通を運行する全国注目のモデルである。令和9年度からの一体運行開始に向け、四者で設立準備や運行形態の検討を進め、開始後も改善を重ね、県は広域自治体として役割を果たしていく。

なおはるの想い

運休中のJR津軽線蟹田～三厩間について、6月に基本合意が締結され、自動車交通への転換と18年以上の運行維持、JRIによる地域支援が盛り込まれましたが、継続的に地域を支える事業でなければいけません。

05 公共工事の発注について



Q 福士

現在の建設資材価格高騰を踏まえた、県発注工事における予定価格の算出方法について伺いたい。

A 県

県発注工事の予定価格は、資材・労務単価等を数量に乗じた直接工事費と、経費率等で算出する間接費を合算して算出している。資材単価は市場調査に基づき毎月改定し、労務単価等は国の調査結果を使用。さらに受注後の価格変動にはスライド条項を適用し、協議に応じて請負代金の変更に適切に対応している。

なおはるの想い

物価高騰が建設業にも大きな影響を及ぼし、県内で入札が不調・不落となる事例が発生している。特に資材・人件費の高騰が要因と考えられ、公共工事の積算単価や発注にも不安の声があります。適期適正価格での工事発注が望まれます。

06 物価高の影響を受けている 県内中小企業者への対応について



Q 福士

県は中小企業者の事業継続を支える資金繰り支援にどのように取り組んでいるのか伺いたい。

A 県

県内中小企業は物価や人件費高騰で厳しい状況にあり、県は金融機関と連携し特別保証融資制度を実施している。経営安定化サポート資金で必要資金を確保し、借換資金で返済負担を軽減するなど資金繰りを支援。今後も経営環境を把握しつつ、関係機関と連携し金融面から事業継続を支えていきたい。

なおはるの想い

物価高により、県内中小企業は原材料費や光熱費の上昇、価格転嫁の困難などで厳しい経営環境に直面しており、資金繰りや事業継続への支援が必要と考えます。

07 価格転嫁の問題について



Q 福士

県内中小企業者が価格転嫁を適切に行えるよう、県はどのような支援に取り組んでいるのか伺いたい。

A 県

県は昨年9月に価格転嫁促進連絡会議を設置し、情報共有やセミナー、広報活動を実施してきた。今年度は支援アドバイザーによる訪問相談や実践塾を開催し、原価把握や交渉力向上を支援していく。さらに国の交渉促進月間に合わせ、新聞・TV等で広報を強化し、中小企業の価格転嫁促進に取り組んでいく。

なおはるの想い

中小企業にとって、物価上昇分の適切な価格転嫁は経営安定に不可欠ですが、交渉力や取引関係の課題から難しい場合が多く、事業継続にも影響が及びかねません。適正な価格転嫁への支援が必要と考えます。

08 農林水産分野の物流対策について



Q 福士

物流の2024年問題を受けて、農林水産物を取り扱う荷主事業者の対応状況と課題について伺いたい。

A 県

物流の2024年問題では、ドライバー拘束時間制限による輸送力低下が懸念され、リンゴや野菜など県産品の安定輸送体制整備が課題であるため、一部荷主は出荷場所の集約やパレット活用で積み込みを効率化し、鉄道・フェリー輸送も導入している。県はこうした取組を踏まえ、農林水産物の安定供給に対応していく。

なおはるの想い

本県の基幹産業である農林水産業において、物流の2024年問題により輸送コストの上昇やトラック確保への不安、現場の作業負担増が深刻化しています。特に高齢化が進む地域では大きな課題となっており、早急な対策が必要です。

09 農林水産分野における物流の効率化について



Q 福士

今年度実施されている県の物流効率化に向けた取組について伺いたい。

A 県

県は「あおり農林水産物物流効率化推進事業」により、荷主事業者を支援している。具体的には、フォークリフトなど荷役機械の導入や物流倉庫の整備・改修に対し費用の一部を補助し、多数の申請を受けている。今後は事業活用状況を把握し、関係団体と情報共有を進め、県産農林水産物を全国へ安定的に届けられるよう物流効率化を推進していく。

なおはるの想い

農林水産物の物流効率化は、集荷・配送負担の軽減だけでなく、地域経済や地場産品の安定供給にも重要です。県内では、初期投資やノウハウ不足に悩む声も多く、資金面や情報提供等の伴奏型支援が望まれます。

10 青森県営浅虫水族館の取組について

Q 福士

入館料改定後の入館者数の状況と今後検討されている入館者増加に向けた取組について伺いたい。

A 県

浅虫水族館は令和7年4月に入館料を改定し、子供の無料対象を高校生以下へ拡大、一般は1,200円とした。4～5月の入館者数は約6.3万人で前年同期比130%となり、特に小中学生は154%に増加した。今後も指定管理者との連携強化しながら、新展示やスポット設置、夜間開館や特別イベントも実施し、魅力向上とPR強化で入館者増加を図っていく。

なおはるの想い

浅虫水族館は、観光や子供たちの学びの場として重要な役割を果たしており、本年4月の入館料改定後、子供料金の無料化などが利用者に好意的に受け入れられているようです。今後の運営においても、満足度の高いイベントやサービスの提供によって、入館者数増加に繋がる事を期待します。



11 手話通訳者の資格取得について

A 県

手話通訳者資格は、国のカリキュラムに基づく講座を約4年かけ修了後、全国統一試験に合格する必要がある。昨年度の全国合格者333名のうち本県は3名、本年3月末時点で登録者は126名である。県は養成講座や初心者講習会、普及啓発を行い、今後はオンライン開催も含め受講機会拡大を検討し、人材育成に努めていく。

Q 福士

手話通訳者資格の取得方法と現状、だれもが受講できる体制づくりに向けた県の取組について伺いたい。

なおはるの想い

手話通訳者を目指す方から、資格取得には時間と労力がかかり、開催地の限られた講座への参加が難しいとの声がありました。特に地方では学ぶ機会が限られ、意欲があっても挑戦が難しいのが現状です。聴覚障がい者が安心して暮らせる社会の実現には、手話通訳者の確保が不可欠であり、国スポ・障スポ開催に向けても人材育成は急務と考えます。

12 避難所環境整備について



Q 福士

孤立が予想される地区の避難所備蓄に関する県の考え方、冬季災害を見据えた避難所整備について、県の見解を伺いたい。

A 県

県は能登半島地震の教訓を踏まえ、災害で道路が寸断し孤立集落が発生した場合にも避難生活を継続できるよう、災害備蓄指針を見直した。その結果、半島部など孤立が想定される地区の避難所に県備蓄物資を保管し、今年度以降順次配備を進めていく。さらに、厳冬期災害時の暖房確保の重要性を踏まえ、暖房器具も備蓄対象に加え、計画的な整備を開始する。

なおはるの想い

半島地域など孤立が想定される地域では、災害時に外部からの支援が届きにくくなる恐れがあるため、避難所に十分な備蓄を確保しておくことが重要です。また、本県は豪雪・極寒地域であり、冬季の大規模災害に備えた避難所環境の整備も必要と考えます。

意見交換

意見交換会

農業・漁業・建設業等6回にわたり様々なジャンルの皆さんと意見交換会を開催しました。直接お話を伺うことでリアルなお話や課題に対する熱量を感じることができました。これからも可能な限り多く開催し皆さんの声を聴いて県政に反映されるよう努力していきたいと思います。



要望活動

新幹線の高速化と安全性の確保等要望



新幹線・鉄道問題対策特別委員会を代表して、奥田副知事と共にJR北海道本社へ北海道新幹線の高速化と安全性の確保等の要望に伺いました。

調査活動①

国連大学へ訪問

本県の教育環境の充実やSDGsの取組を学ぶため国連大学を訪問してきました。チリツィ・マルワラ学長は大変気さくな方で2026年の本県への訪問も調整中です。学校訪問等で文化的・教育的交流が出来ればよいと考えています。



協会設立

青森県外国人労働者雇用協会を設立

本県の労働者不足解消の一環として、外国人労働者の安定就労支援と企業側の受け入れ体制整備に貢献する為「青森県外国人労働者雇用協会」を設立しました。



調査活動②

猛暑によるホタテガイ養殖への影響調査

自由民主党青森県連合会で猛暑によるホタテガイ養殖への影響調査を行ってきました。養殖かごのホタテ稚貝は生育も悪く、1割程度しか生き残っていませんでした。早急な原因究明と対策が必要です。



調査活動③

カキ養殖の現場調査

県議会自民党会派の有志で、ホタテガイ養殖に代わる養殖事業として着目されているカキ養殖の現場を調査してきました。



勉強会

地方創生推進等の勉強会

内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部 事務局 企画官 安達裕介様を講師としてお招きし、デジタル田園都市構想や地方創生推進交付金についての勉強会を開催しました。



意見交換会のご案内

地域の皆様から多くご要望がありました「意見交換会」を開催する運びとなりました。ぜひお近くの会場へ来場いただき、皆さんの声をお聞かせください。

※意見交換会の日程や会場は、状況により変更となる場合がございます。ご了承ください。

開催会場

- | | | | |
|--------|------|--------|-------------------|
| ▶10/22 | 14時～ | 外ヶ浜町平館 | 湯の沢温泉ちゃぼらっと大広間 |
| ▶10/23 | 10時～ | 外ヶ浜町小国 | 下小国会館 |
| ▶10/23 | 13時～ | 外ヶ浜町蟹田 | 中央公民館 |
| ▶10/25 | 15時～ | 今別町大川平 | 荒馬活性化センター |
| ▶10/31 | 13時～ | 平内町松野木 | 松野木公民館 |
| ▶11/ 1 | 10時～ | 平内町稲生 | 稲生漁民センター |
| ▶11/ 1 | 15時～ | 平内町清水川 | 清水川コミュニティーセンター |
| ▶11/14 | 10時～ | 蓬田村広瀬 | 広瀬公民館 |
| ▶11/14 | 13時～ | 蓬田村中沢 | 中沢公民館 |
| ▶11/15 | 10時～ | 平内町小湊 | 山村開発センター |
| ▶11/15 | 13時～ | 平内町東田沢 | 東田沢集落圏防雪管理センター |
| ▶11/29 | 14時～ | 外ヶ浜町三厩 | 外ヶ浜町総合交流促進センターかぶと |

編集後記

第9号となります今回の議会広報は第322回定例会の一般質問の他、意見交換会や勉強会、国連大学への訪問や青森県外国人労働者雇用協会の設立等、学ぶ場所作りの活動を多く掲載しています。一般質問では意見交換会で出されたご意見を反映した質問ができました。これからも地域の皆さんの想いを県政に届ける事、皆さんの暮らしが豊かになる取り組みをしていきたいと思えます。最後まで読んでいただきありがとうございました。

富士直治 プロフィール



学歴

平成元年 青森県立青森北高等学校卒業(20回生)
平成5年 東北工業大学土木工学科卒業(23回生)

議員歴

平成21年10月～31年3月 今別町議会議員 3期
平成31年 4月 青森県議会議員 初当選(現在2期目)

家族構成

妻と子供2人